

2021年3月28日主日礼拝

大井バプテスト教会

説教題「何をしているのか知らない」マタイ 27章 1～10節

主任牧師 加藤 誠

「イエスを裏切ったユダは…後悔し…『わたしは罪のない人の血を売り渡し、罪を犯しました』と言った。しかし彼らは『我々の知ったことではない。お前の問題だ』と言った」(マタイ福音書 27章 3-4節)。

取り返しのつかない罪を犯してしまった時、私たちはどうすればよいのでしょうか。

ユダは自分のしたことの恐ろしさに気づいた時、自分が受け取った銀貨30枚を返しに行きます。しかし金を返したけれども、逮捕された主イエスを取り戻すことはできませんでした。金を投げ返したとしても、ユダが犯した裏切りの罪を「なかったことすること」はできなかつたのです。

昔、会社のお金を横領し使い込んだ人が「ちょっと借りていただけだ。金を返せばいいんだろ」と開き直ったそうです。同じような言葉を政治家からよく聞きます。違法性のあるお金を受け取っておきながら、それが表沙汰になりそうになると「返すのが遅くなりましたが、もう返しました。問題ありません」と。お金を返せばそれで何もなかったことにできるのでしょうか。一時的であれ横領し、違法性のあるお金を受け取った。その罪を神さまの前に誤魔化すことはできないはずです。

ユダは「しまった！」と気付いてお金を返しに行ったとき、祭司長や長老たちから「我々の知ったことか。お前の問題だ」と冷たく突き放されます。事実、彼らにはすでに手出しのできないことでした。あくまでもユダ自身が、独りで、神さまの前に、自分の責任を抱えて立つしかない事柄なのです。

ユダはその事実を突きつけられた時、無実の神の御子を売り渡すという取り返しのつかない、恐ろしい罪を犯してしまった責任とどう向かい合えばよいのか分からずに、絶望し、自ら命を絶ってしまったのでした。

ユダのように、取り返しのつかない罪を犯してしまった時、私たちはどうすればよいのでしょうか。

ユダはある意味で真面目に自分の罪と向かい合ったのです。彼は目を背けて、自らの責任を適当に誤魔化すこともできたはずです。「イエスさまだって悪い。イエスさまがまるで挑発する言葉を言われたから、ついカッとなってしまったんだ」と、私たちがよくする責任転嫁をして自らの責任を薄めることも出来たはずでした。

しかしユダは逃げませんでした。ユダは自分のしてしまった事実と向かい合い、それが取り返しのつかない大変な間違いであったことを突きつけられて、神さまの前に何の申し開きも出来ない自分に絶望したのでした。

しかし、このユダの自死がイエス・キリストの十字架の前に置かれているところに大切な意味があるように思います。

私たちはユダと同じように取り返しのつかない罪をいくつも神さまの前に重ねている者ではないでしょうか。それらの罪は、わたし自身が神さまの前で向かい合

わなければならないものであって、他人は何も手を出せないのです。聖書は言います。「それはあなたの問題であり、あなたと神さまとの問題だ」と。

けれどもそのわたしのために「ひとり」執り成し祈ってくださっている方がおられる。十字架の上で私たちの罪と一つになり、その苦しみを引き受けつつ、わたしのために祈ってくださっている方がおられる。それがイエス・キリストです。

「父よ、彼らをお赦してください。彼らは自分が何をしているのか知らないのです。自分が何をしているのか知らないばかりか、自分たちの大きな勘違いに対する責任を負うこともできない。その彼らをどうか赦してくださいと祈られるのです。

この方こそ、私たちの救いであり、私たちを神さまの真実の愛に連れ戻してくださる方であると聖書は証ししています。

ユダがなぜ主イエスを裏切り、大切な方を銀貨30枚で売り渡してしまったのか。その理由を聖書ははっきりとは書き記していません。いろいろな理由が語られていますが、推測の域を出ることはなく、真相は誰にも分かりません。

ユダは十二弟子の中で会計係を任されていたくらいですから、しっかり者で信頼されていた存在でした。ペトロは弟子集団を束ねるリーダーシップのある人物でしたが、おっちょこちょいなどころがありましたし、ヨハネとヤコブもNo2とNo3の弟子と見なされていましたが、「雷の子」とあだ名されたように気が短い男たちだったので、お金の管理には向いていなかったのでしょう。その点、ユダは冷静で知的な男でした。最後の晚餐の時にも主イエスの近くに座っていますから、主イエスからも信頼を得、愛された弟子の一人だったのです。ただ十字架の前に起こったベタニヤ村での「香油事件」などの場面を見ると、どうもユダは「神の国」に関して主イエスと意見が合わずに衝突する部分があったようで、主イエスに対して苛立ちや怒りを覚えていた面があったようです。

警察のデータによると殺人や暴力事件は、赤の他人との間で起こるより肉親や知人の間で起こる確率の方がずっと多いのだそうです。愛する間柄、近い間柄だからこそ、憎しみも深くなってしまふ。それは人間の弱さでしょう。愛する人、大切な人をこそ深く傷つけ、苦しめてしまふ。ほんとうに人間は弱く愚かな存在だと思います。

ユダは自らの罪と向かい合い、その恐ろしさと向かい合い、深く後悔しました。そして自らの責任を自分一人で背負おうとして絶望したわけですが、しかしそのユダのために祈り、執り成し続けてくださっている方がいることをユダには知ってほしかったと思うのです。私たちもまたユダのように、自分が何をしているのか、そしてその責任を自分自身では背負えない者たちですが、その私たちを神さまの真実の愛のもとに連れ戻してくださる方がいることを今日、聖書は証ししてくれています。自分一人で自分の重荷を背負うのではなく、「あなたの重荷をわたしが引き受けよう」と言ってくくださっている主イエスの執り成しを受けとりながら、主イエスと共に歩み、神さまを礼拝する者とさせていただきたいのです。